

報 会 窓 同 京 東 高 館

第 29 号 平成 27 年 2 月 発行

発刊に当たって

活躍する同窓生

会 長 鈴木 昇

(昭和 35 年卒)



今更ですが、我が同窓会の目的は会則にある通り、会員相互の親睦と母校の発展に寄与することにあります。母校の発展に寄与するとはどんなことでしょうか、財政面での支援や、進学、就職と云った在學生や同窓生の人生のエポック局面で支援するなど色々あると思います。更に、同窓生がこつこつ努力している姿や元気な姿を講演会や会報を通して発信し、同窓生が社会的に評価されることが、延いては母校のステイタスアップに繋がり、発展に寄与することになると思っております。

昨年 11 月の総会後の講演会で、34 年卒の栗原優氏に海水の淡水化について講演戴きました。栗原氏はこの分野の世界的第一人者であり、正に、母校のステイタスアップに貢献する講演会であったと思います。講演内容については別稿をご覧戴き、ここでは栗原氏の略歴とその活躍振りを紹介します。栗原氏は群馬大学工学部応用化学科に進み、卒業後東レ（株）に入社、研究畑を歩まれました。この間、東京大学で工学博士の学位を取得され、また、米国の IOWA 大学に博士研究員として留学しています。その後、高分子研究所長等を勤め、2011 年常務理事に就任されました。対外的には日本脱塩協会副会長、国際脱塩協会理事として世界規模で活躍しております。また、最も輝かしいことは、内閣府が進めている「最先端研究開発プログラム」の一員に選ばれたことにあります。日本全国から応募のあった研究者の中から 30 人が選ばれたもので、因みに、他にはノーベル賞受賞者の田中耕一氏や山中伸弥教授等々錚々たる方々が名を連ねております。

さて、日本人はともすると飲料水を含め水についての関心が薄いと思いますが、世界を見渡すと多くの国々が水不足と戦っています。栗原氏はこの地球上の限られた水資源（海水等 97.5%、淡水 2.5%）に着目し、長年海水を淡水化する研究を重ねてこられました。世界規模で人類に貢献しているといえます。講演を拝聴し、同窓であることを誇りに思うと同時に元気を戴きました。

これからもアンテナをしっかりと張って、努力している同窓生の姿や元気な姿を多く発信していきます。今年も観桜会、納涼会、ゴルフ会、講演会を企画しています。同窓会ブログでもお知らせしますので是非ご参加戴きたいと思っております。

引き続き母校と緊密な連携をとりながら、ブログ等駆使し、更に、彩ある同窓会に発展させていくため取り組んでまいります。

第33回 定時総会報告

平成26年11月1日(土)午前11時よりホテル グランドパレスにおいて第33回定時総会を開催した。当日は、会員による総会後、ご来賓を迎えて講演会ならびに懇親会が催された。

1. 総会

鈴木昇会長(昭和35年卒)の挨拶後、篠崎睦男氏(昭和40年卒)を議長に選出し、招集通知で案内された議題について審議を行った。

議題は、①平成26年度事業報告、②平成26年度決算報告、③監査報告、④役員増員、⑤平成27年度事業案、⑥平成27年度予算案、についてであった。

議案は、出席会員諸氏の協力により全て承認・可決された。

役員増員については、若年層の会員増強を図るため昭和43年卒の小倉巧氏及び昭和45年卒の小林信夫氏の2名を副会長(広報担当)に選出した。

2. 講演会

講演会は、昭和34年卒の栗原優氏(板倉町出身、東レ株式会社フェロー、工学博士)を講師に「世界の水問題解決に貢献—21世紀型水処理基幹技術を日本イニシアチブで構築—」をテーマに行われた。

栗原氏は、内閣府が推進している「最先端研究開発プログラム」の研究員として、ノーベル賞受賞者の田中耕一氏、山中伸弥氏等と共にトップ30人に選ばれており、「海水淡水化膜」研究の世界的第一人者として活躍している。

平成27年度事業計画(34期)

(平成26年10月～平成27年9月)

年 月 日	事 項
平成26年11月1日	第33回定時総会
11月8日	本校同窓会総会参加
11月11日	東京同窓会ゴルフ会(34回)
12月	役員会
平成27年2月	役員会
2月	第29号会報発行
4月	第1回理事会・観桜懇親会
5月13日	本校同窓会ゴルフ交流
6月	役員会
7月	第2回理事会・納涼懇親会
9月	役員会

注) 群馬県人会連合会、首都圏東毛3校会、本校同窓会各支部、館女高など他校首都圏同窓会との交流は随時行う予定です。

講演は、栗原氏の小中高時代の文武両道の話から、世界の水問題の現状や海水淡水化システム等について、解り易く説明され、身近な水について改めて興味を引き付ける内容であった。

3. 懇親会

懇親会は、上田裕信教頭(県立館林高等学校)を始め本校同窓会副会長・板倉支部長鈴木攻氏他各支部長および他校同窓会関係者、会員約40名が参加した。

鈴木昇会長のあいさつ後、上田教頭から本校における進学状況、文化部・スポーツ部門の活躍等近況報告がなされた。

続いて鈴木敏男名誉会長(昭和23年卒)の音頭で乾杯が行われ、和やかな雰囲気の中懇談の輪がいくつも出来て旧交を温め、終りに新旧の校歌を斉唱して散会した。

4. 参加者

(1) 来賓 10名 上田裕信館林高校教頭、本校同窓会副会長・板倉支部長鈴木攻氏、本校同窓会副会長・館林支部長遠藤和昭氏、館泉会会長(大泉支部)稲村一男氏、邑楽町支部長横山美樹氏および他校同窓会関係者

(2) 会員 30名

5. 事業報告、会計報告ならびに決算については総会案内のとおり。予算・事業は下表のとおり。

次回(第34回)定時総会の予告

日 時:平成27年10月31日(土)

午前11時より

会 場:ホテル グランドパレス

講 演:松沢幸一氏(昭和42年卒)

(元麒麟ビール(株)社長)

平成27年度予算(34期)

(平成26年9月1日～平成27年8月31日)

収入の部(金額単位:円) 支出の部

項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	93,689	総会 運営費	350,000
年会費収入	450,000	懇親会運営費	294,000
総会費収入	320,000	印 刷 代	300,000
懇親会収入	294,000	通 信 費	320,000
広告料収入	30,000	交 流 費	100,000
雑 収 入	250,311	雑 費	50,000
		次期繰越金	24,000
合 計	1,438,00	合 計	1,438,00

世界の水問題解決に貢献！ 21世紀型水処理基幹技術を日本イニシアティブで構築



昭和34年卒 栗原 優

1. はじめに

水は我々の生活に不可欠で極めて身近な存在だが、その水が世界的に大きな注目を集めるようになってきている。世界レベルでの人口増加と経済発展に起因し、水需要の増大と水環境汚染が進行しているためである。世界の水問題を検討する上で、地球上の水資源は限られていることである。すぐ実用化できる河川、湖沼などの淡水はわずか0.01%であり、地下水、海水などの淡水化が必要となってきた。

ここでは、膜という新しい技術で、世界の水問題にどう対応しているかについて述べる。そして内閣府の「最先端研究開発支援プログラム（FIRST）の中心研究者として参加し、その成果として21世紀型水処理基幹技術を日本のイニシアティブで構築し、世界の水問題解決に貢献する実状について述べたい。

2. 世界の水資源の現状と課題

世界の人口増加と経済発展により水の量と質の確保が必要になってきている。この世界の水問題では、水とエネルギーと食料という3つの課題に加えて、最近では健康と安全安心確保のため、上水、下水の処理に膜処理導入も必要となってきた。（図1）

3. 最先端研究開発支援プログラム応募の背景

経済危機を克服して、わが国を再び成長軌道にさせるため、科学技術による国を挙げてイノベーション

を巻き起こす必要があるとして最先端研究開発支援（FIRST：Funding Program for World-Leading Innovative R&D on Science and Technology）プログラムが平成21年に公募され、採択された30の研究課題のうち1件が「メガトンウォーターシステム（正式課題名はMega-ton Water System）、中心研究者、栗原優」である。

「メガトンウォーターシステム」は、21世紀に求められる水処理基幹技術に日本イニシアティブで構築し、世界の水問題解決に向け貢献することを基本コンセプトとしている。

世界の環境問題の中で水不足と環境水の汚染などの水問題は、食料問題やエネルギー問題と共に、トライアングルの関係にあり、現在世界が直面している大きな問題となっている。

この問題の根本原因は、世界の人口増加と経済発展による水環境破壊によることから、我々の生活を支えるため、「水量と水質」を同時に確保できる新しい膜処理技術が急速に普及してきた。

膜法による海水淡水化プラントの設置規模（トップ20位）の推移を図2に示す。2000年以降、日量10万m³の淡水（平均的先進国では約40万人分の生活用水に相当）を確保できる大型プラントが世界中で建設されるようになってきた。

しかし、水需要は年々拡大しており、図2の最大規模のトレンドに示されるように、2020年頃には日

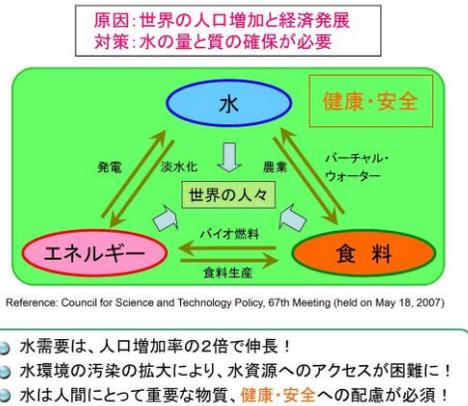


図1 世界の課題：水とエネルギー・食料

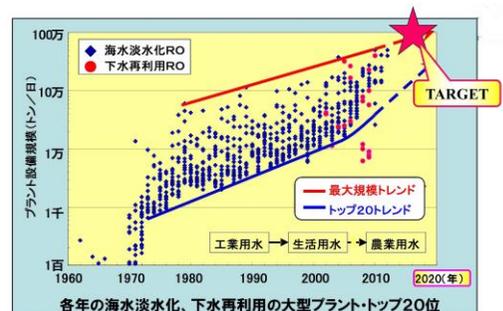


図2 海水淡水化等、逆浸透プラント規模の推移

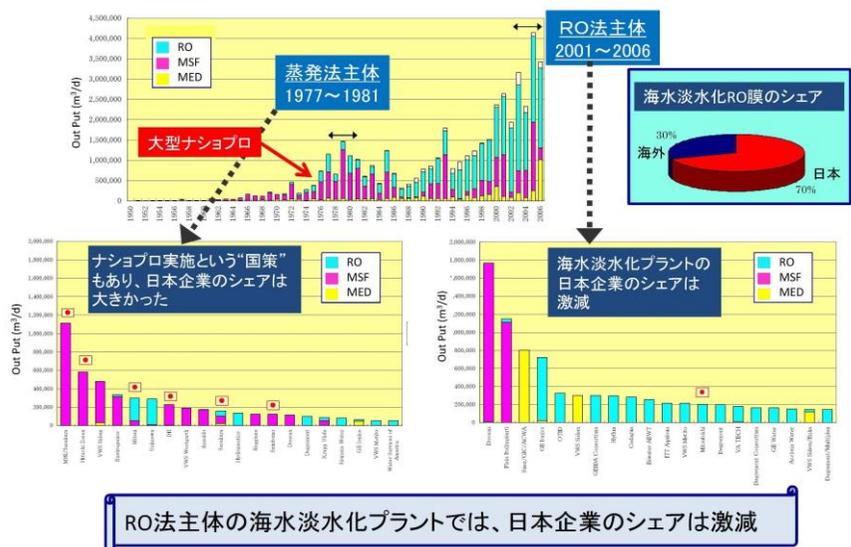


図3 海水淡水化プラント市場の推移（蒸発法→RO法）

量 100 万 m^3 （約 400 万人分の生活用水に相当）の大規模プラント建設が予想される。本図を作成した時点ではデータ解析による推定値であったが、2014 年には日量 100 万 m^3 規模のフィージビリティスタディーが水不足に悩む複数の国・地域で検討が始まり、メガトン（日量 100 万 m^3 ）級の海水淡水化プラント建設の実現可能性が高くなった。

このような大規模海水淡水化プラントの建設に当たっては、単にコストだけでなく、21 世紀に必要な環境負荷の低減とエネルギー消費に配慮した新しい水処理システムの開発が求められるようになった。

一方、図3に示すように海水淡水化プラントの建設実績について、蒸発法が主体であった1970年代当時、日本のプラントメーカーは国による大型技術開発支援をベースに世界市場を席卷していたが、その後(1980年)は、欧米および韓国企業の後塵を拝している。しかし、海水淡水化技術がエネルギー多量消費型の蒸発法から省エネルギー型の膜法にシフトするにつれ、その重要な構成素材である逆浸透膜（RO膜）と高圧ポンプについては、日本製品が世界市場で高いシェアを獲得してきたことから、この優位性を武器に急拡大する世界水ビジネス市場への展開をすべきとの提言と国際展開に向けた基本的方向性が示された。

このような背景のもとに、強い要素技術はさらに強くすると共に、弱いシステム技術を強化するため、「要素技術からシステム技術までを含む広範囲な水処理基幹技術の研究開発を推進し、わが国の中長期的な国際競争力の強化を図る」ことをビジョンとして掲げ、最先端研究開発支援プログラムに応募した。

4. 研究概要

2020年頃までに実用化を目標としている「Mega-ton Water System」の研究対象は、海水淡水化システム

を主体としているが、このシステムから得られる淡水は、生活および工業で使われる都市用水として機能した後は下水処理後に環境中に排出される。また、海水淡水化システムからは淡水と同時に濃縮海水が環境中に排出される。したがって、21世紀型の大規模海水淡水化プラントの計画に当たっては、その海水淡水化プラントの設備費や運転コストの低減だけでなく、環境水としての水循環の適正化の観点から、下水処理システムのパラダイムシフトと濃縮海水のエネルギー利用も含め、「海水淡水化に係る水循環システム」を対象に研究課題を設定した（図4）。

5. 研究推進体制

「Mega-ton Water System」の研究予算はその後の加速予算の追加分を含め、総額34億円強が、FIRSTプログラムの基金管理運用と研究課題等選定後のプログラムの執行を担当する独立行政法人日本学術振興会（JSPS）から、中心研究者が指名した研究支援担当機関である独立行政法人新エネルギー産業技術

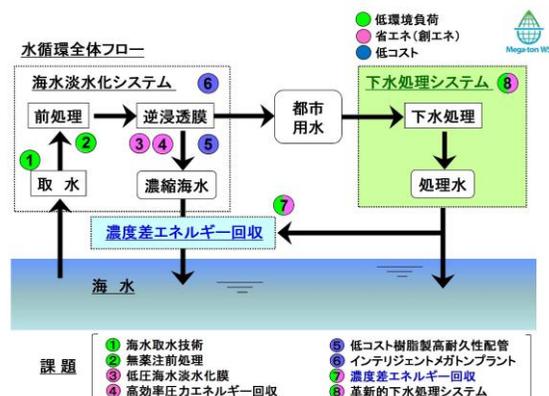


図4 メガトン研究プロジェクトが対象とする水循環全体フローと課題

総合開発機構（NEDO）に助成される。NEDOは中心研究者の研究方針に基づき、サブテーマ研究を推進する11大学、民間企業業18社、その他2機関と個別に契約を締結し、その研究推進状況をフォローする体制（図5）となっている。なお、本研究を推進する登録研究者は延約140名である。

6. 研究アウトプット

「Mega-ton Water System」はわが国の中長期的な国際競争力の強化を図るため、2020年頃の出口を見据えた研究としての「100万m³/日規模の海水淡水化システム」と、基礎的研究ステージであるが、将来の基幹技術としての「10万m³/日規模の下水処理システム」を最終的な成果物、アウトプットと位置づけている。

「100万m³/日規模の海水淡水化システム」に対して、国際競争力強化と水環境システムの持続性のため、3つの目標を設定した。

- ① 20%省エネルギー
- ② 環境負荷として、無薬注プロセス
- ③ プラントコスト、および造水コストの半減

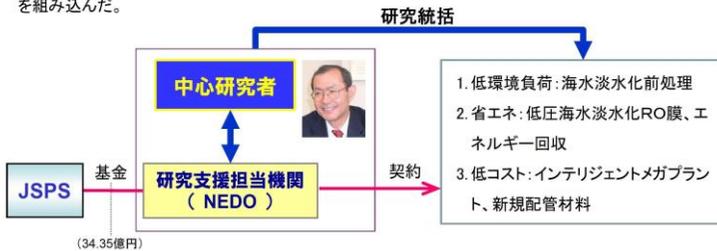
この目標に対して、機器・部品の研究は引続きの国際競争力の維持、強化のための研究、独自のシステムの研究についてはシステム技術開発を推進した。

「Mega-ton Water System」として図6に示すよう

研究推進体制

研究期間: 2010年4月1日～2014年3月31日 (4カ年間)
キックオフ会議開催: 2010年6月11日

要素技術5テーマ、システム技術3テーマを中心研究者が、大学、民間企業等、31機関の延べ140名の登録研究員を統括、推進する。研究テーマは、極限技術追求型と将来の基幹技術追求型の両者を組み込んだ。



© Mega-ton Water System Project. All rights reserved.

図5 Mega-ton WaterSystemの体制

な研究成果を得た。「Mega-ton Water System」は、世界初の「低圧二段高収率 RO システム」であり、低圧海水淡水化 RO 膜、高効率圧力エネルギー回収装置を開発することで、世界初の20%のエネルギー削減を達成できる。濃度差エネルギー回収装置と組み合わせると最大30%の省エネルギーが達成でき、当業界では画期的な成果となる。低環境負荷は無薬注前処理と濃度差エネルギー回収を組み合わせることで環境への負荷は大幅に低減できる。低圧二段高収率 RO システムは、65%の収率を達成し、プラントサイズ（前処理部30%）削減、さらに高耐圧樹脂配管装置の導入などによって、プラントコストおよび造水コストを半減できる。

本プロジェクトの成果は国際シンポジウムを開催し情報発信した。参加者は学者のみならず、多くの

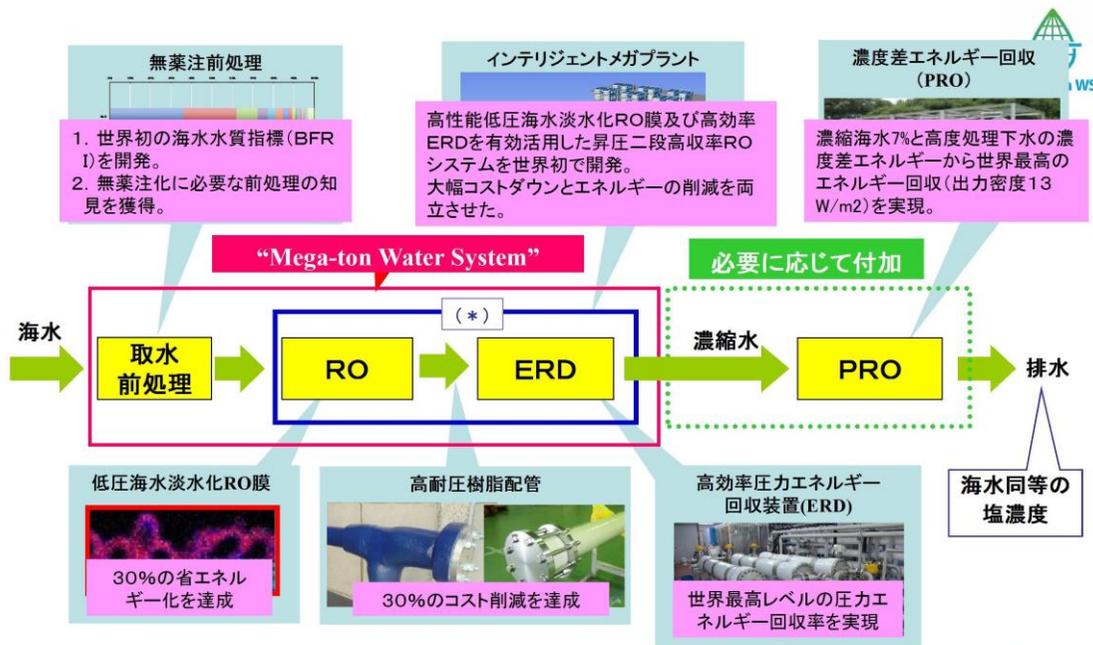


図6 Mega-ton WaterSystem - 研究成果まとめ -

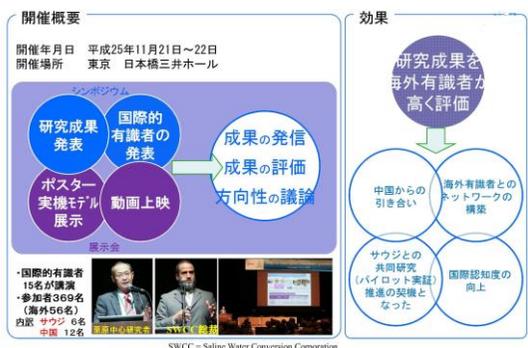


図7 “Mega-ton WaterSystem” 国際シンポジウムを開催

国際的有識者に参加戴き、成果の発信、成果の評価、方向性の議論を行った（図7）。注目すべきことは、メガトン（100万m³/日）規模の実用プラントの検討に入っているサウジアラビア、中国からの参加者である。サウジアラビアからは、国の海水淡水化公団の総裁の参画を得たので、サウジとの共同研究（パイロット実証）推進の契機となってその後順調に移している。

7. 今後の課題

20%省エネルギー、無薬注に代表される低環境負荷。プラントおよび造水コストの半減による国際競

争力の強化は、研究プロジェクトとして全ての目標を達成した。

今後の課題としては、図8に示すように

- 1) 機器・部品は参画企業各社の事前資本投下によってそれぞれの生産技術の確立とその事業化推進
- 2) 全体システムとしては、パイロット規模（500m³/日）と実用規模の二段階で実施し、実プラント受注へとつなげる。それぞれの工程表は図8に示した。

8. 最後に

「Mega-ton Water System」が FIRST プログラムの一つとして選ばれたことは大変光栄である。しかし、実質4年の研究期間では、国際競争力強化のための技術開発は可能であるが、技術だけでは世界市場では勝てない。技術は不可欠であるが、事業戦略が極めて重要である。過去10年間の世界の脱塩市場実績推移に示されるように、トップ6のプレイヤーの顔ぶれのうち、欧州の2社を除く4社がたったの5年間で、新規参入組と入れ替わった。これを教訓に、21世紀に求められる持続可能な水処理事業分野において、官民連携して日本イニシアティブで世界の水問題解決に向け貢献することが重要である。

くりはら まさる：工学博士（東京大学）
 館林高校、群馬大学卒業後、東洋レーヨン（現東レ）株式会社に入社、専任理事を経て現在フェロー 群馬県邑楽郡板倉町（旧伊奈良村）岩田出身 滋賀県大津市在住

課題 I. 機器・部品：生産技術確立とその事業化（各社の自前資金投下）
 II. システム（全体）：海外実証の遂行（パイロット規模&実用規模の二段階実施）
行程表

	2014	2016	2018	2020 ~	ビジネス展開(予定)
海水淡水化システム	機器・部品 生産技術確立		本格事業化 (東レの例)		東レ、東洋紡 ダイセンメンブレンシステムズ、 荏原製作所、旭有機材工業、 横河電機
	PRO 国内実証(福岡) (400m ³ /d)		実プラント (10,000m ³ /d)		協和機電工業
	システム(全体) 海外実証(サウジ) (500m ³ /d)		SWCCとパイロットプラント実証試験について協議中		日立製作所、東レ、 三菱重工業、三菱商事
		海外実証(10,000-50,000m ³ /d)	サブメガプラント受注	メガプラント本格受注	
下水処理システム	実証研究 (20m ³ /d)	公的セクターでの実証 (5,000m ³ /d)	国内展開 100,000m ³ /d	海外展開 100,000m ³ /d	三菱レイヨン(機器・部品)、他

図8 “Mega-ton WaterSystem” の今後の課題

<p>館林高等学校東京同窓会名誉会長 群馬県人会連合会会長代行・副会長 上毛倶楽部副理事長</p> <p style="text-align: center;">鈴木 敏男 (23 年卒)</p> <p>連絡先 〒121-0816 東京都足立区日梅島 2-7-4 電話 / FAX 03-3886-8931 E-mail t.suzuki@nanavoiajan.co.jp</p>	<p>葭葉法律事務所</p> <p style="text-align: center;">辯護士 葭葉 昌司 (27 年卒)</p> <p>〒106-0031 東京都港区西麻布 3-21-20 霞町コーポ 903 号室 電話 03-6447-0446 FAX 03-3403-0675</p>
<p>震災予防研究会</p> <p style="text-align: center;">代表 荒井 昭 (27 年卒)</p> <p>〒177-0045 東京都練馬区石神井台 2-32-20 電話 03-3996-8122</p>	<p>テクニカルコーディネーター・建築家</p> <p style="text-align: center;">大隈 清道 (29 年卒)</p> <p>〒273-0022 船橋市海神西 1-1193-1-1006 電話 0474-33-6790</p>
<p>社団法人日本バーテンダー協会 国際バーテンダー協会 (I. B. A) 加盟</p> <p>名誉会員顧問 長谷川 馨 (33 年卒)</p> <p>カクテル&ワイン K I Y O M I 〒140-0014 東京都品川区大井 1-10-1 電話 03-3772-9531</p>	<p>館林高等学校東京同窓会会長 日本書道普及連盟</p> <p style="text-align: center;">評議員 鈴木 昇 (35 年卒) (龍道)</p> <p>〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-16-9 トーアビル 206 電話 03-3261-3121</p>
<p>相澤・藤井法律事務所</p> <p style="text-align: center;">辯護士 相澤 建志 (36 年卒)</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座 7-2-22 電話 03-3574-0880 (代) FAX 03-3572-0028 E-mail aizawa-l-o@nifty.com</p>	<p>一般社団法人 日本・ネパール親善協会 会長 株式会社 サービス経済研究所 グローバル・アライアンスコンサルタンシー・サービス</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 山岸 正 (36 年卒)</p> <p>〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-14-12 本多ビル 電話 03-5985-4945 FAX 03-5985-4945 E-mail hhe01366@nifty.com</p>
<p>小林公認会計士事務所</p> <p style="text-align: center;">公認会計士・税理士 小林 功一 (54 年卒)</p> <p>東京事務所 〒123-0851 東京都足立区梅田 8-5-6 電話 03-3880-2187 FAX 03-3880-2138 群馬事務所 〒370-0603 邑楽郡邑楽町中野 3013-14 電話・FAX 0276-88-1844</p>	<p>株式会社 ホテル グランドパレス</p> <p style="text-align: center;">常務取締役 河村 博 (51 年卒)</p> <p>〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-1-1 電話 03-3264-1111 (代) FAX 03-3264-5496</p>

健康のバロメータ グラウンド・ゴルフ



宮田 秀夫
昭和 29 年卒

振り返るとグラウンド・ゴルフを始めて6年6ヶ月になった。年を経過するに従い、グラウンド・ゴルフが日常生活の中で比重を増してきたように思う。

所属しているクラブは、ホームグラウンドが市営の梅林公園の中にあるため、若干の使用制限がある、公園の利用者に気をを使う等あるが、環境に恵まれた中で、梅の開花はもとより四季折々の変化を觀賞して楽しみながらプレイしている。

コースは梅林公園に併設している既存のゲートボール場、普段は使用していない臨時駐車場、芝生広場の3ブロックに15m、25m、30m、50mのホールを設定している。土のグラウンド、小砂利、芝生とバラエティに富んだコースとなり、こうしたコースで日頃練習や試合をしていることから、仲間のクラブ員の中からは外部の大会に出場して優勝や上位入賞する者を輩出するまでに至っている。

グラウンド・ゴルフはゴルフに類似しているが、1本のクラブで短・中・長距離を打ち分けなければならない競技である。このため球を打つ方法やコントロールに工夫や研究が要求される。

ご多分に漏れずこの私も、試行錯誤の末にクラブのグリップを短・中・長の距離に対応して三通りの握りでプレイしているが、当分の間はこれに磨きをかけるほかはなさそうである。

日頃プレイ中に感じたこと、仲間から得た情報、失敗してその原因が判明したことなどをメモし、時々読み返して一つでも二つでも実行し、身に付けることにより成績に反映できればと思っている。

また、グラウンド・ゴルフは思っている以上に身体にハードであることが計測の結果裏付けられた。普段、約2時間余の練習時における歩行数を歩数計で調べたところ、約7,000歩を記録している。身体をひねる、膝の曲げ屈伸も相当回数をこなすなどを考慮すれば、運動量はさらに多くなっている。

プレイが終り家へ帰っての休息は、程良い疲れと無事に終わったことに対する安らぎをもたらしてくれるとともに様々な思いを得られて心地よい。

最近では体調管理とも密接なかかわりがあるようで、多少でも体調が整わないでプレイすると、かなり身体に影響を残すことを経験した。このため日頃の練習への出欠も慎重に判断して決めているが、これからも健康に配慮しながら、ともすれば運動不足に成りがちになるのをカバーしてくれるグラウンド・ゴルフを楽しみ、かつ競いあっていきたい。

[埼玉県越谷市在住 館林市朝日町出身]

京都目指して歩き旅 東海道 53 次 495Km を完歩



長谷川 馨
昭和 33 年卒

旅のきっかけは、そろそろ古希を迎える区切りに何かやってみたくて考えていた折、永年の夢であった旧東海道を歩いてみたいという思いが込み上げてきたからです。

私は品川区大井町でカクテル・バーを経営していますが、乗りの良い優しいお客様にこの話をしたところ、話がとんとん拍子に進み、有志が10数名集まり目出度く会が発足。53次を歩くと言う事で「うおーく 53 の会」と命名。

第1回 平成19年9月24日午前10時・日本橋。初回の行程は日本橋～川崎宿まで20Km。いざ出発。

普段から長距離を歩く習慣のない私。大森を過ぎた辺りで案の定、足首、股関節が痛んで参りました。苦しいのは私だけかなと周囲に目をやると、他の参加者も顔をしかめながら(かなり)苦勞しているご様子。私だけじゃない、ちょっと胸をなでおろした次第です。

江戸時代の旅人は1日10里(約40Km)移動し、京都までの行程を約2週間で歩き終えたといいますが、聞くとやるとでは大違い。改めて彼らの健脚振りと忍耐強さに驚かされ、感動する事しきりでした。

午後4時過ぎ川崎宿に到着。近場の焼肉屋で反省会。ビールってこんなにおいしい飲み物だった?

第2回 川崎宿～東戸塚 18.5Km 箱根駅伝で有名な権太坂そして武蔵の国～相模の国へ。

第3回 東戸塚～平塚 26Km

第4回 平塚～小田原 20Km 小田原ではうなぎの名店「柏又」で反省会。

第5回 小田原～箱根～三島 35Km 今回、東海道53次のメインイベントともいえる箱根越えがいよいよ始まります。江戸を出て最初の城下町小田原城を後に・・・箱根八里には色々の坂があり、猿さえ滑ったと言われた「猿滑りの坂」、女性が転びそうになる「女ころばし坂」、中でも一番の難所「樞の木坂」。

この辺まで来ると 15 名中半数はバテ気味。途中甘酒茶屋で一休み。

ここで、一人で東海道を歩くという 60 代の女性と遭遇。夕方芦ノ湖畔のホテルに着く。温泉につかりながら芦ノ湖を眺め優雅なひと時。箱根越えからは一泊または二泊の行程になりました。

二日目、朝 9 時三島に向かう。杉並木通り、箱根関所、うっそうと茂る兜石坂、箱根峠を越えて相模の国から伊豆の国へ。峠を越えると下りのため、三島の町は良く見え近そうに思えますがなかなか遠い。遅い昼食は有名なうなぎ屋「桜塚」。ここは最高。

第 6 回 平成 20 年 7 月 21 日～22 日。三島～原～富士(吉原) 35Km (ここで) 沼津のバーテンダー仲間 2 名が特別参加。

三嶋大社で、無事に京都まで完歩できますよう祈願して駿河の国に入る。沼津港で昼食は新鮮な寿司を食す。風光明媚な千本松原を往くも、真夏の最高気温で全員バテ気味。夜は沼津の仲間のバーでちょっと一杯。

二日目、田子の浦～左富士(東海道を西に向かう)と富士は常に右手に見えるが、茅ヶ崎の南湖とここ吉原のみ進行左手に見える)。

第 7 回 富士(吉原)～興津～府中 38.5Km 広重の絵でも名高い景勝地・薩捶(さつた)越え。昼食は桜えびで有名な蒲原「よし川」で、桜えびのかき揚げとしらす。泊りは「駿河健康ランド」。

第 8 回 府中～岡部～藤枝～島田 35Km 府中宿、丸子宿の創業 400 年のとろろ汁の元祖、広重の絵で著名な「丁子谷屋」で昼食。

50 名位並んでいたが、お店が広いので 20 分くらいで入店。食後、宇津ノ谷峠を通過。50～60 軒程度の小さな集落ですが、丁度祭日でしたので、どの家も日章旗を揚げ、峠から見下ろすとたいそう素晴らしい眺め、私の 53 次の旅で最も心に残る風景のひとつ。電車の時間に余裕があったので、コースからちょっと外れて大井川に架かる蓬莱橋(明治 12 年完成の木造歩道橋)を渡る。丁度雨が降ったため川の流れも速く、怖いぐらいであった。

第 9 回 島田～金谷～日坂～掛川～袋井～見附 38.5Km 東海道の中間、遠江を横断。金谷の石畳・山内一豊ゆかりの掛川城を見学。

第 10 回 3 月 20、21 日 見附～浜松～舞阪～新居 29Km 徳川家康ゆかりの浜松城、20Km 歩いた後のお城の階段はちょっと疲れた。

二日目、遠江の要衝・浜松 日本屈指の汽水湖・浜名湖を当時の旅人の気分になりながら小船で渡り、関所で名高い新居宿へ。

第 11 回 平成 21 年 9 月 20 日～22 日 新居～白須賀～吉田～御油～赤坂～岡崎 3 日間 61Km 小生、不覚にも 4 月に新潟県神立スキー場にて転倒し足を骨折、故に 53 次の旅を 6 ヶ月延期し、ようやく再開。久々のうおーく会、足も大分良くなりましたが用心のため、折り畳み式自転車を持参、疲れたら乗ることにした。長かった伊豆・駿河・遠江の旅もやっと三河の国に入りました。

一日目、新居関所～潮見坂～吉田宿。

二日目、岡崎 27 曲り。この日は私の 70 歳の誕生日。岡崎の友人の紹介で、炭火焼き鳥「ととや」で古希の祝いを 53 の会のメンバーにして頂き、豪華プレゼントも頂く。こんな旅もあと何年できるかな・・。

第 12 回 岡崎～知立～鳴海～宮 35Km

一日目、徳川家康誕生の地「岡崎城」から八丁味噌蔵～知立に向かう。ここは東海道 39 番目の宿場で、日本橋から丁度 330Km。当時の人は約 10 日かかったらしい。

二日目、織田信長と今川義元の戦いで有名な桶狭間合戦場跡を通過。昼食は熱田神宮前の「あつた蓬莱軒」のひつまぶし。話には聞いていたが、うなぎもこういう食べ方も有るのか。

第 13 回 桑名～四日市～亀山～伊勢神宮 36Km(3 日目伊勢神宮はオプション)

一日目、七里の渡し場跡。四日市、広重の絵にある三重橋。四日市泊り(メンバーの親戚のホテル)。

二日目、杖衝坂、石薬師宿、庄野宿、亀山

第 14 回 3 月 20 日～21 日 亀山～水口～石部 36Km

一日目、亀山城から往時の街並みを残す関宿(ここは国の重要伝統的建造物保存地区)。宿は「渓谷料理鈴鹿峠」。夜の料理は、数日前に店主が仕留めた猪料理。翌朝、庭を見たら猪の皮が干してあった。

二日目、東海道有数の難所、鈴鹿峠越え。今日は朝から中国からの黄沙が酷く、すれ違う車はどれも真っ白。自宅前の車は皆洗車中。土田宿辺りでこの旅で初めて雨に降られた。

第 15 回 石部～草津～大津 27Km 東海道と中山道が交じり合う、江戸から 53 番目の宿場町草津。やっと京都も目前、あと一息。「うばがもち」を食し草津宿に向かう。

二日目、日本三大名橋「瀬田の唐橋」、近江大橋から「義仲寺」へ。この寺には木曾義仲と芭蕉が眠る。井伊直弼生誕の城「彦根城」を訪ねた。

第 16 回 大津～京都三条大橋

お江戸日本橋から京都三条大橋まで、2 年 10 ヶ月、495Km に及ぶ「東海道 53 うおーく」もついに最終回を迎えました。平成弥次・喜多道中も感動の三条大橋にゴール。全員で万歳三唱。打上げパーティの後、京都の仲間のバーを夜中まで 3 軒梯子。

途中、私のスキーでの事故以外は何の事故も無く、皆無事に終わらせることが出来何よりでした。最後に幹事役の馬場さん大変ありがとうございました。

誌面の都合で行程表のようになってしまいましたがお許しください。

[社団法人日本バーテンダー協会名誉会員顧問 カクテル & ワイン KIYOMI オーナー 東京都大田区在住 館林市出身]



ゴールの京都・三条大橋で喜びの記念写真

東電の採用試験落ちて館高へ



天谷 政幸

昭和 35 年卒

東京電力（以下東電という）は、平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災とこれに伴う津波被害により、福島第一原子力発電所事故が発生。東電は原子炉の後処理や莫大な補償問題などから会社の存続が危ぶまれる事態になった。

それまで電力各会社は地域独占事業から極めて安定した経営を行っており、東電は日本の電力 10 社の中でも最優良企業を誇っていた。

その東電に私の母の兄と弟、父の姉の長男が勤めていたことから、私もいつしか電気関係に関心を持つようになっていた。私の住む旧高島村はほとんどが専業農家であるが、私の家は 5 反足らずの田畑で、俗にいう“水呑百姓”。祖母と母が農業をやって、父は百姓では喰えないことから単身で東京・日本橋の医薬品販売会社へ勤めて生活の糧としていた。

そんな中で進路をどうしようかと考えていた中学 3 年（昭和 31 年）の秋、東電で縁故者を対象にした採用試験があるという話が叔父（母の弟）から入った。縁故者対象ならきつと限られた人数で、そこそこ出来が悪くても合格率は高いだろうと安易な気持ちで飛びついた。しかし、思惑は見事に外れ、試験結果は不合格だった。

私は男 4 人兄弟で、母は今後の生活のことを考えると長男の私には就職を望んでいた。一方、父は将来のことを考えると子供たちには高等教育を受けさせてやりたいと進学を勧めてくれた。しかし、どの高校を受験したらいいか迷いもあった。

当時、私の家から自転車で通学できる県内の高校といえば、小泉農業高校（現、大泉高校）、館林高校、太田高校だけ。通学の利便性からは小泉農業高校だが、私の家は農業で生計を立てる程の耕作面積はない。となると館林高校か太田高校となる。

担任の先生に相談するといずれの高校についても首をかしげた。それは、私が運動は熱心にやっていたが受験勉強はほとんどやっていたいなかったからだ。私自身は内心、館林高校を希望していた。

その訳は、当時プロレスでタッグを組む力道山・木村政彦とシャープ兄弟の試合が、本放送の始まったばかりのテレビ放送で絶大な人気を誇っていた。丁度、時を同じくして、第 1 回全日本高等学校レスリング選手権大会（現在の呼称は全国高等学校＝イ

ンターハイ）が昭和 29 年 7 月 31 日～8 月 1 日、館林市の旧三の丸公園で開催され、個人では館林高校から 2 人が優勝。団体では館林高校が優勝を飾り、プロレス人気と相まって館林高校レスリング部が一躍全国に知れ渡った。このニュースからプロレスとアマレスの区別がよくわからないまま自分もやってみようという気持ちが高まり、それが館林高校への志望となっていた。

昭和 32 年、母校の高島中学校の卒業生は 85 人だったが、高校進学（合格）は 23 人で進学率は僅か 27% だった。このような状況の中、私は館林高校に合格した。この時ばかりは就職を希望していた母親も喜んで赤飯を炊いてくれた。中学校の担任の先生へ合格の報告に行くと、担任はまたも首をかしげた。合格が見込まれた何人か落ちて、なぜ天谷が合格したのか？という疑問だったのかもしれない。

私は入学と同時にレスリング部へ入部した。その中に、奇しくも東電の縁故者対象の採用試験を受けた同期生が入部した。岩上竹三である。彼こそ一時期低迷した館林高校レスリング部の復活をけん引した中心人物の一人なのだ。彼は 3 年になると持てる力を一気に開花させ、関東高校選手権、全国高校選手権、国体で圧倒的な強さで優勝し、当時の 3 冠を達成した。

現在は全国・全日本と名のつく大会は 5 つあるが、もし岩上が現在において活躍していたなら王座を総なめにしたに違いない。高校 3 年の昭和 34 年は第 14 回東京国体の年であった。群馬県予選では館林高校が全 7 階級の出場を決めた。レスリング競技は東京教育大学（現つくば大学）体育館で行われ、高校の部（現少年の部）は、55 ㎏級の上武洋次郎（昭和 36 年卒）、58 ㎏級の岩上、69 ㎏級の天谷の 3 人が優勝を飾った。この快挙（全 7 階級中、館林高校の 3 人が優勝）は全国紙の各紙で報道され、地方版では写真入りで報道された。

この時こそ館林高校レスリング部員として喜びと誇り感じたことはない。館林高校に入って本当によかった。それが素直な気持ちである。

[一般財団法人東京都レスリング協会理事長

茨城県竜ヶ崎市在住 邑楽町（旧高島村藤川）出身]



前列左から優勝した上武、天谷、岩上の 3 選手

マンネリ化した東京同窓会を 変えていきましょう

深町 司

昭和 61 年卒



館林高校を卒業して、既に 30 年近くになります。大学を経て、社会人になってからは、ずーっと横浜なので、人生の半分以上は既に横浜で生活していることとなります。営業職一筋で、既に顧客数は 2,000 名以上となり、一生涯横浜で、群馬に戻る事もないのかなあと、思ったりします。

館林高校在学中は体育会のワングル部に所属していました。今思うと、精神や体を鍛えるにはとてもイイ経験であったと思います。最近はその経験から、ひとりで山に出掛ける事が多くなりました。主に登るのは、槍ヶ岳や穂高、劔岳などメジャーな山がほとんどですが、ルートを変えたりして楽しんでいます。

多忙のため、夏場に年 1～3 回程度ですが、己と向き合い、無心で登るのはとても新鮮で楽しいです。最近、ただ登るのも飽きてきたので、トレイルランニングも要素に取り入れてきました。走りながら登るのもこれまた楽しいです。だんだん難易度をあげて来まして、来年はいよいよ西穂高岳から奥穂高岳への縦走を行いたいと思っています。そして、その次は槍ヶ岳の北鎌尾根をソロで登りたいと思っています。

これは 50 歳までに成し遂げると決めています。「気力は体力が司る！」私はそう思って、心と体を鍛えています。

東京同窓会との接点は、たぶん観桜会に参加した事がきっかけです。毎回届く会報もパラパラ見る程度で関心はなかったのですが、一度くらい！？と思



写真 1 47 歳ですが館高東京同窓会では若手です・・・

い参加してしまった事が運のツキです。それからというものの、いつの間にか役員になっていて、今回の寄稿までお願いされるハメになってしまいました。同窓会参加者は会報を見れば御察しの通り、私が生まれる前に、既に卒業している方が沢山いますし、自分の父親より歳上の方がほとんどで、47 歳の私が若手で、本当にビックリします。お酒も豪快に呑む方も多く、皆さんお元気です。話はなかなか噛み合いませんが(笑)、自分の将来をオーバーラップさせて楽しむようにしています。ただし、この会も慢性的高齢化をしており、存続もどうなるかと思うくらいです。

「現役の頃はめちゃくちゃ活躍したんだろうなあ」と思われる先輩方で構成しており、確かに人脈的には凄いです。一目でおじさんの会？敬老の会？と思ってしまうかもしれませんが実際はその通りです。SNS 等が進む中、「同窓会なんて時代遅れだよ」という考えもあるかもしれませんが、どうしたら参加してくれるか？どうやって若返り化が出来るかを、役員一同、真剣に考えていらっしゃいます。

私としても、この組織が今まで以上になるように、生意気ながら意見させて頂いておりますが、30 代から 50 代前半までの子育て世代が、まさに空白です。でもビジネスの世界では活躍されていらっしゃる方だと思しますので、是非とも一緒に参加して変化をもたらして頂きたいと思っています。

平均年齢が高く、スピード感とまではいきませんが、企業にもイノベーションが求められている中、この同窓会にもイノベーションが求められています。[ソニー生命保険(株) エクゼクティブライフプランナー 横浜市金沢区在住 大泉町出身]



写真 2 バックは槍ヶ岳北鎌尾根



写真 3 錦秋の涸沢 2014

美味いなー!! ジョギング後のビール



小林 信夫
昭和 45 年卒

私は昭和 45 年に卒業し、その後大学入学(中央大学)のために東京に出て、もうかれこれ 44 年の東京生活になります。

多々良中学校の出身で、実家は多々良沼の近くにありま。子供の頃は多々良沼や近くの川でよく魚釣りをしたり、泳いでいたことを思い出します。また、高校は自転車通学で、西の向かい風の時には大変だった思い出があります。

高校時代は中学から続けていたバレーボール部に所属し、校庭の東側の土のバレーコートで練習をしていました。スライディングをして体中アザをついたり、ミスによる連帯責任でグラウンドや高校の外周路を走らされていました。

大学は法学部だったので、一応司法試験を受けましたが、合格するまでにはだいぶ時間がかかることを認識し、早々に弁護士の夢をあきらめて、大学 3 年時に宅建試験に合格していたこともあり、不動産鑑定士を目指しました。就職はこの業界ではトップといわれている財団法人日本不動産研究所に入所し、今年で 40 年になります。現在は理事・業務部長を拝命しています。大学の同期は弁護士など法曹関係が多く、不動産鑑定士は私一人だけです。

不動産業界はドメスティックと言われていましたが、最近はグローバル化が進み、国内企業の海外投資や外国人の日本への投資も盛んになり、弊所も 5 年前に国際部を創り、2014 年中国現地法人を設立しました。因みに私が董事長(会長)を兼務しています。今後、シンガポールやアメリカ、イギリスなどの海外支店も検討していきたいと考えています。

さて、本題の趣味の話ですが、私は 30 年ほど前に仙台に転勤していた折、車中心の生活で体力の衰えを感じたことから、ジョギングを始めました。最初は家の近くを走っていましたが、少し自信がつくとマラソン大会に参加するようになりました。

せいぜい 10 キロかハーフマラソンでしたが、仙台から東京に戻ってきてからは、筑波マラソンや荒川マラソンなどのフルマラソン(42.195 km)にもチャレンジするようになりました。もちろんタイムを気にするようなエリートランナーではなく、後ろの方からそっとスタートして、最後

の方でゴールするような健康志向のランナーです。しかし、日本不動産鑑定士協会の走友会に 20 年以上参加しており、昨年からは会長を任されています。

毎年、風薫る 5 月頃に皇居を 1 周して食事会という定例行事の他、時には走友会メンバーであちこちのマラソン大会に参加しています。走友会の最高年齢は 91 歳の現役ランナーで、80 歳代の人もいて皆さん元気です。

私の自慢は一昨年、5 回目の申し込みでようやく当選した東京マラソンに参加して完走したことです。3 万人以上が一斉にスタートする大規模な大会で、後ろの方からスタートするわれわれは、スタートラインにたどり着くまでに 20 分以上かかります。

スタート後 30 キロくらいまでは順調だったのですが、銀座を過ぎて豊洲の上り坂にかかる頃から、足がつってしまい、残り 10 キロは歩いて走りたりで、タイムは 5 時間半くらいかかりました。しかしゴールしたときの感激は何とも言いえないものがありました。写真はゴール直後のものです。

今でも秋から冬、そして春にかけて月 1 回か 2 回程度の大会に参加していますが、そのためにはやはり練習が必要で、最近は週末の土、日を中心に走っています。

昔、仙台に転勤していたときにゴルフをかじりましたが、最近の運動はジョギングが中心で、以前膝を痛めて走れなくなったときに始めた水泳を週 1~2 回程度、また家内に付き合っウォーキング大会などにも年数回参加しています。

この年までジョギングの趣味が続いているのは、やはり走ったあとの爽快感です。大学時代から吸っていた煙草を 30 歳代で比較的楽にやめることもできましたし、なんといっても一汗かいたあとのビールの味は何ともいえません。このご褒美があるからこそ継続しているというのが本音かもしれません。

[一般社団法人日本不動産研究所理事

東京都品川区在住 館林市(旧多々良村日向新田)出身]



気分は最高!!
Vサインが出た
東京マラソン完
走直後

年の瀬に、弦の響きに触れて

田口 良二
昭和 52 年卒



昨年の師走が近づくある日、近くのオフィスビルのピロティを歩いていたとき、偶々、芸大の学生によるミニ・オープンコンサートが間もなく始まるとの案内があり、思わず足を止め、しばし聴き入ってしまった。当日の演目はモーツァルトの「アンネ・クライネ・ナハトムジーク」。多くの方が耳にしたことのある軽快なセレナーデである。ちょうど、何日前かに、BSテレビでモーツァルトの生涯を独自のタッチで描いた、「アマデウス」を観たところでもあった。

演奏の場所はコンサートホールでもなく、残響効果等、音にうるさい方にとっては決して好ましい場所ではなかったであろう。

しかしながら、都会の近所と隣接する家に住んでいるため大きな音ではなかなかCDを聴くことができず、普段は通勤途上、携帯音楽プレーヤーをイヤホンで聴いている小生にとっては、体の芯で直に感じることのできる、生のバイオリンの音色は格別であり、こんなにも艶やかな響きだったのだなあと改めて感銘し、しばし心地よい時間を過ごさせてもらった。

クラシックを聴くようになったのは、上京し東京で一人暮らしをしてからだ。

実は、我が家は父が建具屋だったこともあり、家にはベニヤ板などの木材や様々な木工機材があった。そのような中、中学時代にハム通信やオーディオ器具に興味を持っていた同級生の影響で、小生も家にあったベニヤ板を何枚もボンドで接着した合板により、小さなスピーカーながら重低音を出すことのできるバックロードホーンを見よう見まねで作ったこともあった。

したがって、クラシックに興味をもったのも、高尚な志というよりは、アナログ世代らしくバイオリンやコントラバスがもともと紡ぎだせる音色にどれだけ忠実な音が出せるアンプやプレーヤー、スピーカーにはどんなものがあるのか、秋葉原の電気街で実際に触れながら、その過程で、クラシックも聞きかじるようになった次第である。

クラシックには歴史的な系譜があり、数多くある楽曲・作曲家の特色や音楽的な意義については専門家が様々論じており、小生には多くを語れるだけの知識は残念ながら持ち合わせていないが、日常の生活を送る中で、心に一服の安定感や潤いを与えるのは、小生にとっては、古典派の天才音楽家モーツァルトのようである。

小林秀雄は、随筆「モーツァルト」の中でモーツァルトの生涯や多くの著名者によるモーツァルト研究の内容に触れながら、その音楽について評論しているが、「モーツァルトは主題として、一と息の吐息、一と息の笑いしか必要としなかった。彼は大自然の広大な雑音のなかから、何とも言えぬたおやかな素早い手付きで最小の楽音を拾う。」と記している。

希代の天才音楽家の膨大な作品のほんのわずかにしか、小生は触れていないだろうが、モーツァルトに限らずクラシックの楽曲の音色は、聴いた後には文字などとは異なり、その場所に物理的な痕跡は何も残さない。

しかしながら、音色は極めて短い調べであっても、それを、耳を通じて受け止めた我々の生命に、普遍的、継続的な感動を引き起こす。

仏典では、「耳根得道（にこんとくどう）」と説き、人間は、耳から声などの音を聴き成仏する存在であると説き、声・音、そしてそれを受け止める人間の聴覚の作用の、我々人間の生命に対する本質的な力用を説いている。「音」とは不思議なものである。

日々の生活の中では、聞きたくもない中傷や傾聴すべき意見など、様々な声が耳に入るし、また聞かざるを得ないことも多々あるが、ときに芸術の音色にも耳を傾け、刹那の中に人間としての普遍性や力強さを見出しながら、過ぎていきたいものである。

[金融庁勤務（証券取引等監視委員会事務局）

東京都新宿区在住 館林市新宿町出身]

“マンタ”に会いたくて 夫婦でスキューバダイビング



五十嵐 圭
平成5年卒

ホテルの飲食に接している職種柄、趣味は見様見真似の“料理”！自分なりにアレンジする為、失敗を繰り返しながらも、『ああ~美味しい♪』に巡り会える事が多くなったここ最近・・・。

ではここで最新の美味しいレシピのご紹介を・・・と言いたいところですが、今夫婦ともに共通で“ハマっている”趣味と言えば、スキューバダイビングでしょうか。実際は年に1度の夏休みで行っているだけです。趣味といえるかは解りませんがこの機会に是非ご紹介させていただきます。

元々、私の父方の祖父は新潟で漁師をしながら民宿を営んでおり、夏に遊びに出かけるたびに一緒に漁へ出たり、素潜りをしたりと海に対してはなじみと思い入れの深いところがありました。

そんな折、6年程前、毎年夏に石垣島へ通う先輩から現地の海の写真を見せていただいたのが、私の“趣味”の始まりだったのではないのでしょうか。写真越しに見たのは、今までに見たこともない色をした海や魚たち、また島の温かみのある風景でした。

翌年の夏・・・。そう、お解かりの通り、私達は石垣島へと来ておりました。

初めてのダイビングという事で私達は体験ダイビングのコースを選択し、インストラクターの指導の下、いざダイビング！と思いきや、まずは水に慣れる為のシュノーケリングからスタート（シュノーケルとは海面に浮かびながらマスクと息継ぎ用のマウスピースを付けて水中を見ることができ、酸素ボンベなどは背負わないため子供でも楽しむ事ができます）。

水面からの海の中の景色の綺麗な様子を驚かされ、では実際にダイビングへ・・・。

よくテレビなどではスキューバダイビングでの海中の映像は見られますが、中々あのような場面には簡単には達しません。

まずは一番大事な水中での呼吸法の練習をし、次に潜った際に水圧が変わるために起こる鼓膜への圧力の軽減“耳抜き”のマスター。

何度か練習を繰り返し、ようやく海底へ辿り着い

た時の景色は今も忘れません。

それから毎年のように夏休みには石垣島へ通い、体験ダイビングを繰り返すこと3年。

毎回利用していたダイビングショップのインストラクターから、『ライセンスをとれば？』の一言。

体験ダイビングでは5mまでしか潜れない制限があるのだが、Cライセンス（オープンウォーターライセンス）を取得すると18mまで潜れるようになるため、今まで以上の水中の様子が見れるようになるという事でした。

そもそも毎年なぜ石垣島でダイビングなのかと言われると、熱帯の海でしか出現しない巨大なオニマキイトエイ、通称“マンタ”に会いたかったからなのです。

通常ライセンス獲得には海洋実習・筆記試験などで3日間掛かる為、旅行の日数の殆どを費やしてしまうと思いき、これまでは体験ダイビングだけで済ませていたのですが、水中の世界が更に広がるのであればと、翌年に意を決しライセンス獲得に挑む事にしました。

我々が選んだのは通常よりもタイトな2日間でのライセンス獲得コース。

インストラクターや船長のスパルタ指導もあり、夏休みののんびり気分も吹っ飛ばすようなハードな行程でしたが、無事に二人揃ってライセンスを獲得することができました。

ライセンス獲得後は、気分屋の“マンタさん”には会えずにおりますが、今まで以上に素晴らしい景色を楽しんでおります。

毎年夏には石垣島に通っていた私達ですが、『来年は海外でダイビングしたいね〜』などと話し、今年(2014年)は恒例の旅行を我慢しました。

ダイバーの聖地“パラオ”や最後の楽園“ニューカレドニア”など魅力的な場所は多々ありますが、数十年後にはなくなってしまうという事で私達が選んだのは、インド南部のスリランカ近くのインド洋に浮かぶ百数十の島々からなる“モルジブ”。

また“モルジブ”での私達の旅行記を後日会報誌で紹介できれば幸いです。

〔株〕ホテルグランドパレス販売促進部課長
千葉県市川市在住 館林市(旧多々良村成島)出身



平成 27 年度 (平成 26 年 10 月～平成 27 年 9 月) 会費納入者・特別寄付者 (敬称略)

(卒年、氏名 (居住地) 昭 13～昭 24 卒迄は五年制旧制中学校、④は四年卒)

◆昭 13 卒：新里武男 (豊島区)
 ◆昭 19 卒：越澤浩 (武蔵野市)
 ◆昭 20④卒：茅野和司 (藤沢市)、
 吉田三男 (川崎市多摩区) ◆昭 21
 卒：恩田進吾 (杉並区)、小沼弘
 (町田市) ◆昭 23 卒：今西庸也
 (練馬区)、柿沼七郎 (江戸川区)、
 角田晋一 (蕨市)、鈴木敏男 (足
 立区)、松本仁之 (流山市) ④卒：
 岩崎三樹 (大田区)、奈良高 (世
 田谷区)、吉田豪利 (杉並区) ◆
 昭 24 卒：荻野榮藏 (日野市)、小
 島将男 (相模原市南区) ◆昭 25
 卒：栗原誠一 (横浜市戸塚区)、
 小暮堅三 (江戸川区)、田部井忠
 三 (小平市)、高澤俊夫 (柏市)、
 曾根吉道 (墨田区)、中村茂八郎
 (大田区)、宮崎浩 (中野区) ◆
 昭 26 卒：安西弘行 (茨城県阿見
 町)、亀井栄三郎 (神奈川県二宮
 町)、小林淳一 (江東区) ◆昭 27
 卒：荒井昭 (練馬区)、石橋松雄
 (さいたま市中央区)、太田恵一
 (中央区)、金子恭 (越谷市)、車
 崎光和 (江戸川区)、齋藤又一郎
 (埼玉県杉戸町)、須藤仁治 (世
 田谷区)、前橋由男 (狛江市)、三
 田成男 (志木市)、葭葉昌司 (松
 戸市) ◆昭 28 卒：岡戸幸夫 (江
 戸川区)、荻野秀文 (さいたま市
 岩槻区)、小西正 (鎌倉市)、金野
 智 (板橋区)、蓮見重義 (いすみ
 市)、吉永勇 (多摩市)、六本木清
 (立川市) ◆昭 29 卒：石井利水
 (さいたま市緑区)、岩崎充利 (練
 馬区)、内田耕也 (日野市)、大隈
 清道 (船橋市)、関口昌秀 (世田
 谷区)、寺内隆道 (小平市)、吉澤
 義文 (春日部市) ◆昭 30 卒：飯
 田清 (市川市)、内田信也 (練馬
 区)、江原二三男 (世田谷区)、大
 澤啓三 (市川市)、渋井恒夫 (富
 士見市)、水野雅昭 (神奈川県湯
 河原町) ◆昭 31 卒：江原富男 (八
 千代市)、岡村昌二 (川崎市多摩

区)、篠木昭夫 (文京区)、時崎庸
 二 (春日部市)、豊田好夫 (江東
 区)、西田一俊 (さいたま市浦和
 区)、福島善政 (国分寺市)、増尾
 和彦 (福生市) ◆昭 32 卒：大橋
 弘二 (草加市)、塩田昇之 (大田
 区)、富塚勝男 (調布市) ◆昭 33
 卒：鈴木勝也 (台東区)、田中富
 士雄 (町田市)、田口栄治 (荒川
 区)、長谷川馨 (大田区) ◆昭 34
 卒：富田好弘 (春日部市)、延山
 錦吾 (川越市) ◆昭 35 卒：荒井
 昭彦 (松戸市)、天谷政幸 (龍ヶ
 崎市)、太田勝利 (さいたま市大
 宮区)、大手常勝 (白岡市)、神谷
 宗作 (越谷市)、上村重夫 (横浜
 市旭区)、鈴木昇 (東久留米市)、
 武政和夫 (所沢市)、谷田部和之
 (越谷市)、吉澤崇 (草加市) ◆
 昭 36 卒：相澤建志 (町田市)、大
 山稔 (小平市)、篠原稔 (草加市)、
 橋本昌博 (川越市)、幕目駿英 (千
 代田区)、増尾哲雄 (多摩市)、谷
 津直吉 (鶴ヶ島市)、山岸正 (古
 河市) ◆昭 37 卒：大谷義明 (板
 橋区)、正田健一 (新宿区)、高橋
 幹男 (さいたま市見沼区) 日高昌
 昭 (草加市)、藤井基且 (さいた
 ま市南区) ◆昭 38 卒：栗原勝雄
 (府中市) ◆昭 39 卒：荒川博 (さ
 いたま市見沼区)、栗原彪 (府中
 市)、橋本邦雄 (大田区)、浜田邦
 夫 (豊島区) ◆昭 40 卒：柿沢宏
 令 (足立区)、金子和司 (荒川区)、
 亀田隆重 (小田原市)、川島不二
 夫 (松戸市)、篠崎睦男 (横浜市
 南区)、橋本康司 (松戸市)、横山
 英和 (川口市)、渡邊智三 (船橋
 市) ◆昭 41 卒：飯田進 (千葉市
 緑区) ◆昭 42 卒：相川敏雄 (館
 林市)、大野操 (草加市)、須永永
 三 (川口市)、松沢幸一 (さいた
 ま市浦和区) ◆昭 43 卒：小倉巧
 (昭島市) ◆昭 45 卒：江森勇 (久
 喜市)、奥澤康文 (さいたま市大

宮区)、川嶋新一 (足立区)、小林
 信夫 (品川区) 関口勝 (練馬区)、
 原四郎 (板橋区) ◆昭 46 卒：杉
 田利雄 (新宿区) ◆昭 47 卒：石
 川操 (蕨市)、江森孝至 (川崎市
 宮前区) ◆昭 49 卒：新井進 (足
 立区) ◆昭 51 卒：河村博 (世田
 谷区) ◆昭 53 卒：中西茂則 (江
 戸川区) ◆昭 54 卒：小林功一 (足
 立区)、中野栄一 (新宿区) ◆昭
 61 卒：深町司 (横浜市金沢区) ◆
 平成 7 卒：大輪浩幸

特別寄付者氏名

◆昭 13 卒：新里武男 (豊島区)
 ◆昭 20④卒：茅野和司 (藤沢市)
 ◆昭 23④卒：岩崎三樹 (大田区)
 ◆昭 25 卒：小暮堅三 (江戸川区)
 ◆昭 26 卒：亀井栄三郎 (神奈川
 県二宮町) ◆昭 27 卒：荒井昭 (練
 馬区)、車崎光和 (江戸川区)、須
 藤仁治 (世田谷区)、前橋由男 (狛
 江市)、三田成男 (志木市)、葭葉
 昌司 (松戸市) ◆昭 28 卒：蓮見
 重義 (いすみ市) ◆昭 29 卒：内
 田耕也 (日野市)、大隈清道 (船
 橋市)、宮田秀夫 (越谷市)、茂木
 正次 (市原市) ◆昭 30 卒：飯田
 清 (市川市) ◆昭 32 卒：塩田昇
 之 (大田区)、富塚勝男 (調布市)
 ◆昭 33 卒：田口栄治 (荒川区)、
 長谷川馨 (大田区) ◆昭 35 卒：
 荒井昭彦 (松戸市)、太田勝利 (さ
 いたま市大宮区)、神谷宗作 (越
 谷市)、鈴木昇 (東久留米市)、谷
 田部和之 (越谷市) ◆昭 36 卒：
 相澤建志 (町田市) ◆昭 39 卒：
 浜田邦夫 (豊島区) ◆昭 40 卒：
 篠崎睦男 (横浜市南区) ◆昭 43
 卒：小倉巧 (昭島市) ◆昭 53 卒：
 中西茂則 (江戸川区) ◆昭 54 卒：
 小林功一 (足立区) ◆昭 61 卒：
 深町司 (横浜市金沢区)

年会費納入のお願い.....

平成 27 年度 (平成 26 年 10 月～平成 27 年 9 月) の年会費 3,000 円を未納の方は、①氏名、②卒業年、③住所・TEL、を明記していただき、下記口座に送金をお願いいたします。

・郵便振替 加入者名 館高東京同窓会

口座番号 00160-8-773981

観桜懇親会のお知らせ

会員諸氏との懇親・交流を目的に行います。今回は特別イベントとして下記の演奏もあります。ご家族同伴でお気軽に御参加下さい。



**津軽三味線奏者
「和心」主宰
鈴木利枝さん**

懇親会にふさわしい、迫力ある、生の演奏を参加者の皆様に楽しんでいただきたいと思います。

すずきとしえ：1986年生まれ 名古屋市出身
2003年 津軽三味線全国コンクール一般の部優秀賞
2008年 津軽三味線全国大会女性の部 文部科学大臣賞
2014年 津軽三味線全国大会(神戸) 最上級部門 優勝

日時 平成27年3月28日(土) 11時～14時
会場 ホテル グランドパレス1Fカトリア
東京都千代田区飯田橋1-1-1
交通 東京メトロ東西線、都営地下鉄新宿線・九段下駅下車(3分)、JR 総武線飯田橋駅下車(5分)
会費 5,000円(当日受付)
申込先 館高東京同窓会事務局
〒333-0853 川口市芝園町2-1-211 横山 英和方
TEL/FAX 048-262-0067
Eメール yokoyama-ht@brown.plala.or.jp

ゴルフ部会

ゴルフ部会(中村茂八郎部会長)は、第33回親睦コンペを13名の参加を得て平成26年11月11日、千葉県野田市・紫カントリークラブあやめ36(EAST)を会場に、新ペリア方式で行った。

以前は常に20名を越す参加者があったが、近年はこの数字に達することが少なくなり、今回はこれまで最少参加者のコンペとなった。

一年振りのコンペは、季節を先取りした寒さ厳しい生憎の天候であったが、各人日頃あまたのコースで鍛えた腕前を披露すべく元気いっぱいスタート。



逝去会員一覧

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

(平成24年以降に事務局に連絡がありました方々です)

◆昭9卒：新井貞雄◆昭10卒：南条昌二◆昭13卒：南条新五◆昭15卒：前原譲、丸茂秀雄◆昭16卒：今井信二◆昭19卒：浅見伴一、小曾根英八、小林(鈴木)宏◆昭20卒：石川安昭、石塚庄三郎、柿沼幸四郎、高野力也◆昭20④卒：斎藤宇市◆昭21卒：松丸亮◆昭22卒：森直人◆昭23卒：橋本二郎◆昭24卒：川村一夫◆昭25卒：藤浪秀雄◆昭26卒：井上嶺一、頼野木一弘、田部井博文、福島光男◆昭27卒：大島一矩、中野安治、若江治夫◆昭28卒：岡廣明、島山(田中)久之、筑比地繁◆昭29卒：飯塚舜二、岩崎輝二、木村明◆昭30卒：太田徹、谷節男◆昭31卒：飯野竹司、塩田利行、篠原辰治、島野波次、蓮見弘、宮寺孝臣◆昭32卒：黒崎精三、土方(内田)亮司、渡邊芳明◆昭32(定)卒：堀越桂次郎◆昭33卒：小曾根勝二、小林孝雄、篠原博◆昭34卒：樫浦(小林)愛生、金子恵三◆昭36卒：福島文一◆昭37卒：荒井信夫、長浜巖◆昭38卒：市村克夫、栗田国夫、福田恵一、谷島秀則◆昭39卒：吉羽好弘◆昭42卒：笠井喜久夫◆昭43卒：亀岡正則

各組とも軽口をたたきながらのラウンドは、成績よりも親睦を深める楽しいひと時となった。

優勝は西田一俊氏(31年卒)、準優勝は渋井恒夫氏(30年卒)、第3位は内田信也氏(30年卒)となった。

ホールアウト後の19番ホールはもっぱら健康談義。後期高齢者になっても元気にゴルフが楽しめる幸せを噛みしめながら、次回の再会を約し散会した。

編集後記

第29号会報を無事にお手元にお届けできました。

今号は、昨秋の総会時に講演いただいた栗原優氏に、日本を代表し世界を相手に最先端の研究を進めている“水”について最新の成果等を紹介いただきました。また、7名の方に、様々な思い出や楽しい趣味について執筆いただきました。お一人おひとりの文章の中に込められた内容は素晴らしく、同窓生の皆さんの、年代を超越した充実の日常が覗え楽しくお読み頂けると思います。

今はインターネットの時代です。昨秋、本校同窓会は館林高校のホームページに、同窓会のページを立ち上げました。東京同窓会は、従来から公開しているブログをホームページの中にリボン付していただいています。しかし、同窓会のホームページも東京同窓会のブログもまだまだの内容です。魅力あるものにし、より多くの方々に情報を提供できるようにするためにはこうした分野の知識に長けた方の協力が必要です。役員会の中に対処のための人員も配していますが、十分ではありません。紙の会報も必要ではありますが、製作・送付の経費を考えると、これからの時代は、インターネットの活用がより求められています。会員の方の絶大な協力を期待しています。(Y)